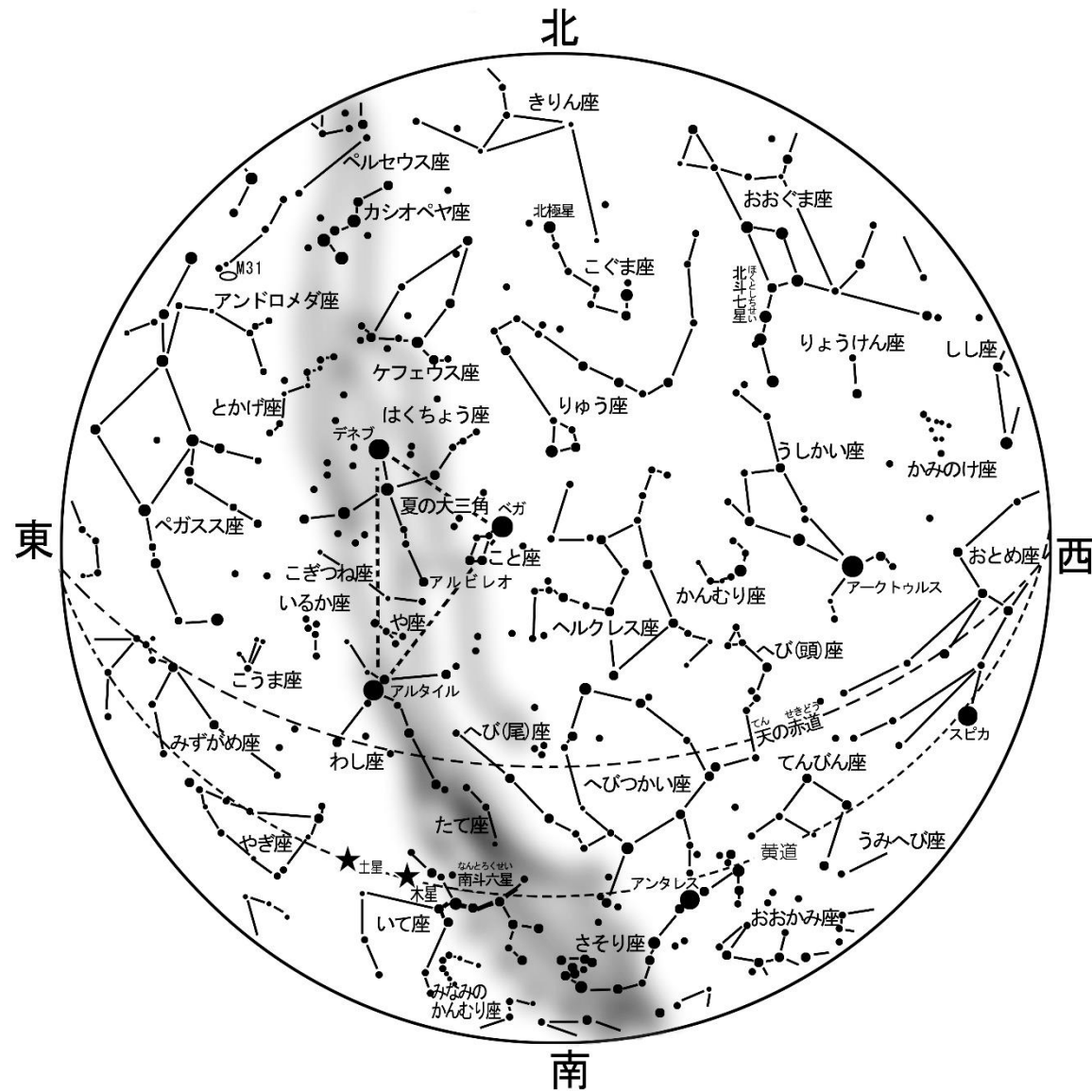


令和2年 8月の星空さんぽ☆ガイド ~ほしを眺めてみませんか~



★8月の星空案内

夏の星座探しは、ちょうど頭の真上あたりでひととき明るく輝く星から始まります。この星が、七夕のお話に登場する“織り姫星”、こと座の1等星ベガです。ベガから南東の空に目線移した時に見つかる明るい星が“彦星”、わし座の1等星アルタイルです。七夕のお話のとおり、織り姫と彦星は天の川の両岸で輝いています。ベガから北東に目線移すと、はくちょう座の1等星デネブが輝いています。このデネブ、ベガ、アルタイルを結んでできる三角形を、『夏の大三角』と言います。また、南の空低いところには、「アルファベットのSの字」のような星の並びが目印のさそり座があります。さそりの心臓のあたりで赤っぽく輝く星は1等星のアンタレスです。アンタレスから東に目線移すと、6つの星でできる「ひしゃく」のような星の並び『南斗六星』が見つかります。南斗六星を含む星座は、いて座です。このいて座付近は天の川が最も明るく見える部分です。今年の夏は、そのすぐそばに—2.6等の木星と0.2等の土星も輝いています。街明かりの少ない所に行く機会があれば、明るい1等星や2つの惑星をたよりに、天の川の観察に挑戦してみたいはいかがでしょうか。

< 現在見える惑星 >

水星(-1.0等前後):ふたご座→しし座付近	観測に適さない。
金星(-4.3等前後):おうし座→ふたご座付近	日の出前、東の空でひととき明るく輝く。
火星(1.8等前後):うお座付近	夜明け前、南の空で赤く輝く。
木星(-2.4等前後):いて座付近	21時頃、南南東の空で明るく輝く。
土星(0.2等前後):いて座付近	21時頃、南南東の空で輝く。

注目の天文現象 ~旧七夕の日に、織り姫星と彦星、そして月を楽しもう~

今年の旧七夕は8月25日です。旧七夕とは、旧暦の7月7日に行われる七夕のことです。旧暦は月の満ち欠けをもとにして作られた暦で、新月(月齢0)になる日を月の始まりと考えていました。ですから、旧暦の7月7日は新月から6日が経過していることになり、月齢は6前後の半月より少し前の、船のような形をしています。この月を船に見立てると、まるで織り姫が月の船に乗って天の川を渡り、彦星に会いに行っているようにも見えます。

現在の暦で7月7日は多くの地域が梅雨の時期で、天候に恵まれないことも多いのですが、旧七夕の時期は梅雨も明けて晴天率が高くなります。また、7月7日の日の入り1・2時間後では織り姫星と彦星は東の空で輝いていますが、旧七夕の21時ごろは頭の真上あたりで織り姫星が輝き、彦星も高度が高く、見やすくなっています。

ぜひ8月25日の夜は、月の船に乗って彦星に会いに行く織り姫を想像しながら、夜空を見上げてはいかがでしょうか。

日	曜	天文現象	日	曜	天文現象
4	火	○満月 (00:59)	13	木	金星が西方最大離角
7	金	立秋	19	水	●新月 (11:42)
12	水	●下弦 (01:45) 22時頃ペルセウス座流星群が極大(条件悪)	25	火	旧七夕
			30	金	●上弦 (02:58)